

平成26年度
相生市財務書類
(普通会計)

平成28年3月
相生市財務部財政課

新地方公会計制度に基づく財務4表の公表

I 財務4表の作成目的

地方公共団体の会計処理は、現金の収支を基準とするいわゆる現金主義・単式簿記を基本としています。これは、1年間にどのような収入があり、その収入を何にいくら使ったのかを明らかにするのは優れていますが、市がどれだけの資産を持ち、どれくらいの負債（借金）があるのかといった情報を把握することはできません。

そこで国は、地方公共団体においても現金の収支のみならず、財産・物品等の増減及び異動をその発生した事実に基づいて経理する発生主義・複式簿記の考え方をとりいれた財務書類4表（貸借対照表、行政コスト計算書、資金収支計算書、純資産変動計算書）の整備に取り組むことを要請すべく、平成18年8月31日総務省において、「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針」を策定し、平成19年10月に「新地方公会計制度研究会報告書」として新たな会計基準を示しました。

これを受け本市では、平成20年度決算分から、同報告書に示された「総務省方式改定モデル」による財務書類4表を作成しています。

なお、作成方式には「総務省方式改訂モデル」のほか「基準モデル」や自治体独自モデルなど様々なモデルが存在する中、平成27年1月に総務省から示された「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」では、すべての地方公共団体において、遅くとも平成28年度決算から「統一的な基準」による財務書類等の作成が要請されています。

II 普通会計財務書類

1 対象会計普通会計

普通会計とは、個々の地方公共団体ごとに各会計の範囲が異なり、財政比較などをするために地方財政統計上統一的に用いられる会計区分です。

本市では、次の会計が普通会計となります。

- ① 一般会計
- ② 看護専門学校特別会計

2 作成基準日

会計年度の最終日（毎年度3月31日）を基準日とします。また、出納整理期間（4月1日～5月31日）における出納については、基準日までに終了したものとします。

3 作成資料

総務省が公表している「新地方公会計制度実務研究会報告書」「財務書類の記載要領」に基づき、地方財政状況調査表（決算統計）の数値を基礎として作成しています。

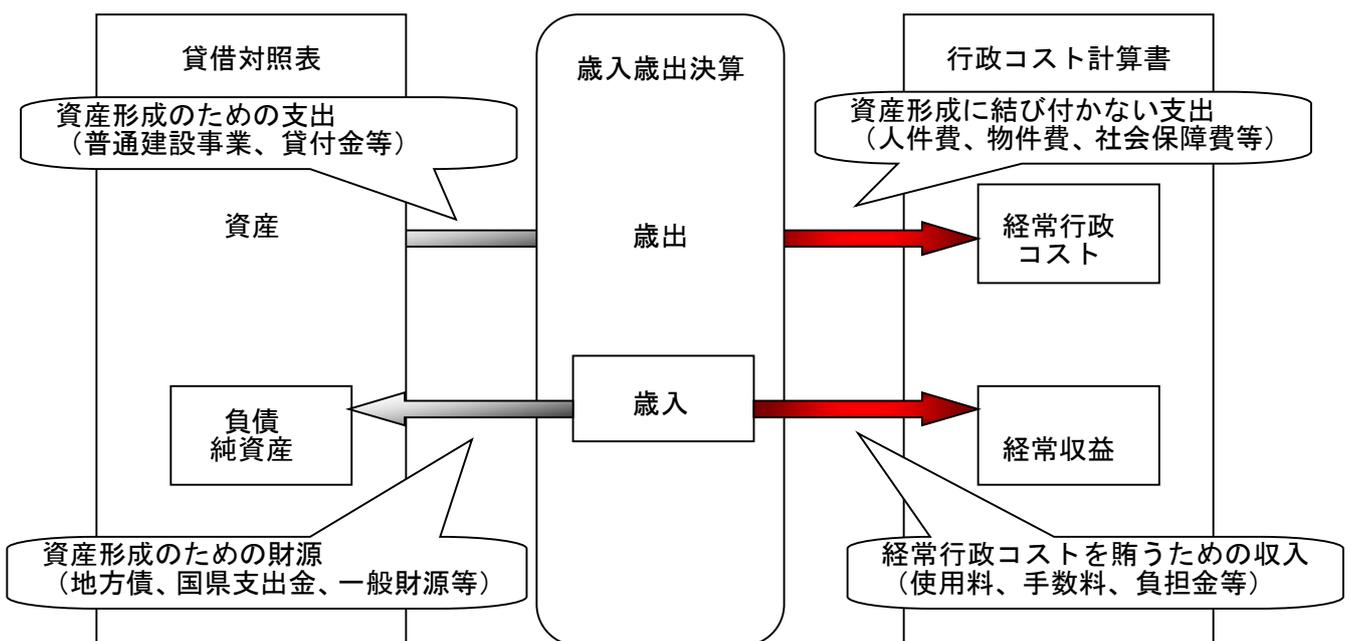
※ なお、金額等は、表示単位未満を四捨五入しているため、表内において積上げと合計が一致しない場合があります。

◎ 財務書類 4 表の相互関係



財務書類 4 表は、上記の図のように相互に関係し、矢印で結ばれているところは金額が一致します。

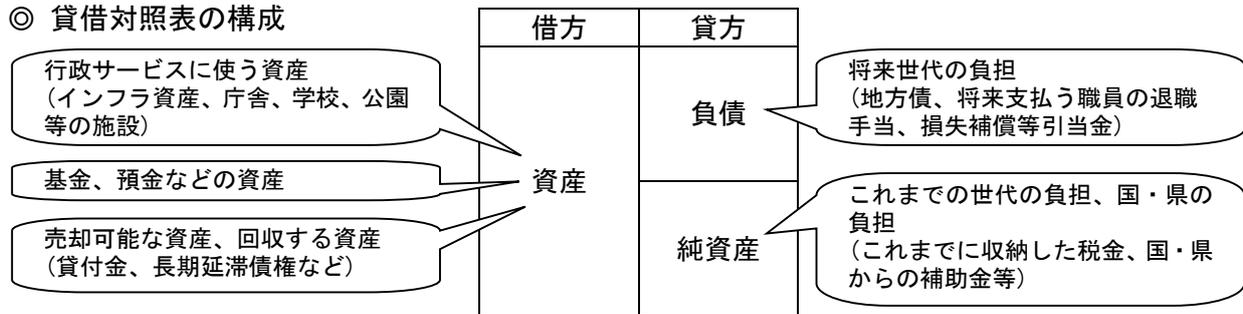
◎ 歳入歳出決算と貸借対照表・行政コスト計算書の関係



＜貸借対照表＞

貸借対照表は、財政状態を明らかにするため、年度末において、市が住民サービスを提供するために保有する財産（資産）と、その資産をどのような財源（負債・純資産）で賄っているかを総括的に表したものです。また、借方（資産の用途・運用形態）の資産合計額と貸方（資金の財源）の負債・純資産合計額が一致し、左右がバランスしている表であることから、バランスシートとも呼ばれています。

◎ 貸借対照表の構成



(1) 総括

相生市の「資産」は 653.0億円で、これに対応するものとして、将来返済が必要な「負債」が 159.1億円、返済を要しない「純資産」が 493.9億円となっています。「資産」に対する割合は「負債」が 24.4%、「純資産」が 75.6%となっています。

(2) 資産の部

① 公共資産

公共資産は 598.4億円で、総資産の 91.6%を占めています。

有形固定資産を行政目的別にみると、道路、橋りょう、公園などの生活インフラ・国土保全が 71.5%で最も多く、次いで学校、社会教育施設などの教育が 17.3%となっています。

② 投資等

投資等は出資金や目的基金、長期延滞債権などで、17.8億円で、資産の2.7%を占めています。投資等のうち、基金は9.7億円で、投資等の54.5%を占めています。

③ 流動資産

流動資産は、財政調整基金や減債基金、形式収支に相当する現金預金、地方税などの未収金で、総額は 36.8億円となっています。

(3) 負債の部

固定負債の「地方債」と流動負債の「翌年度償還予定額」を合わせた地方債総額は140.6億円で、負債の88.4%を占めています。

退職手当引当金は15.5億円で、負債の9.7%を占めています。

(4) 純資産の部

公共資産等整備国県補助金等は72.5億円で純資産の14.7%、公共資産等整備一般財源等は 465.8億円で純資産の94.3%を占めています。

「その他一般財源等」は 48.0億円のマイナスとなっています。これは、将来自由に財源として使用できる純資産が既に用途が拘束されていることを意味します。通常「その他一般財源等」に計上される額はマイナスとなります。これは、国から交付される地方交付税の代替措置として臨時財政対策債という資産形成を伴わない地方債が存在することが主な要因です。

貸借対照表の用語解説

有形固定資産	有形固定資産とは、公共資産のうち現に行政サービスを提供しているものをいいます。原則として再調達価額をもって計上することとされていますが、総務省方式改訂モデルでは、固定資産台帳が段階的に整備されるまでの間、取得原価を基礎として算定した価額をもって計上することが認められています。そのため、昭和44年度以降の決算統計における普通建設事業費（取得価額）の累計額から減価償却の累計額を差し引いた後の金額を計上しています。
売却可能資産	公共資産のうち、遊休資産や未利用資産等の行政サービスの提供に使用されていない資産
投資損失引当金	連結対象となる団体等の財政状況が一定以上悪化した場合、その損失に備えて計上されます。
長期延滞債権	収入未済額のうち1年を超えて回収がなされていないものを計上します。
回収不能見込額	長期延滞債権及び未収金の翌年度以降に回収不能と見込まれる額をそれぞれ計上しています。
財政調整基金	年度間の財源を調整し、財政の健全な運営を図るために設置された基金
減債基金	市債の償還に備えて設置された基金
歳計現金	当該年度の歳入・歳出の差額（年度末の繰越残高）
未収金	地方税等の収入未済額のうち、過去1年以内に発生したもの
損失補償等引当金	履行すべき額が確定していない第三セクター等の損失補償債務のうち、財政健全化法上、将来負担比率の算定に含めた将来負担額
賞与引当金	期末勤勉手当は12月から5月までを支給対象期間として6月に期末手当及び勤勉手当が支払われますが、6月の支払予定額のうち前年度の12月から3月までの4ヶ月分（6分の4）を計上します。
公共資産等整備国 県補助金等	公共資産の整備や投資等に対する財源のうち、国・県から受けた補助金等
公共資産等整備一 般財源等	公共資産の整備や投資等に対する財源のうち、国・県から受けた補助金、市債、債務負担行為を除いた金額。これまで財産を取得した財源のうち、市税等の額を表します。
資産評価差額	「売却可能資産」の取得価額と売却可能価額との差額や評価替による差額など

行政コスト計算書

〔 自 平成26年4月 1 日
至 平成27年3月31日 〕

【経常行政コスト】

(単位：千円)

	総 額	(構成比率)	生活インフラ・ 国土保全	教 育	福 祉	環 境 衛 生	産 業 振 興	消 防	総 務	議 会	支 払 利 息	回 収 不 能 見 込 計 上 額	そ の 他
1	(1)人件費	1,703,096	14.3%	102,804	326,586	148,380	285,480	92,377	31,861	550,395	165,213		0
	(2)退職手当引当金繰入等	274,636	2.3%	20,872	56,026	25,541	53,554	15,654	0	97,771	5,218		0
	(3)賞与引当金繰入額	102,882	0.9%	7,202	19,342	8,848	18,519	5,452	0	33,745	9,774		0
	小 計	2,080,614	17.4%	130,878	401,954	182,769	357,553	113,483	31,861	681,911	180,205		0
2	(1)物件費	1,506,693	12.6%	107,843	456,619	186,932	380,791	54,412	12,394	298,778	8,924		0
	(2)維持補修費	78,046	0.7%	23,421	28,131	794	8,057	11,264	52	6,327	0		0
	(3)減価償却費	1,838,610	15.4%	990,517	299,334	47,370	285,061	84,827	36,990	94,511	0		0
	小 計	3,423,349	28.7%	1,121,781	784,084	235,096	673,909	150,503	49,436	399,616	8,924	0	0
3	(1)社会保障給付	2,329,150	19.5%		7,557	2,298,071	23,522						
	(2)補助金等	1,030,441	8.6%	43,685	148,390	125,140	27,491	75,470	559,369	48,395	2,501		0
	(3)他会計等への支出額	2,702,525	22.6%	1,117,437	0	1,102,247	153,717	329,124	0	0	0		0
	(4)他団体への 公共資産整備補助金等	177,085	1.5%	40,503	0	89,661	5,099	21,364	14,308	6,150	0		0
	小 計	6,239,201	52.3%	1,201,625	155,947	3,615,119	209,829	425,958	573,677	54,545	2,501		0
4	(1)支払利息	183,454	1.5%								183,454		
	(2)回収不能見込計上額	12,335	0.1%									12,335	
	(3)その他行政コスト	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0			0
	小 計	195,789	1.6%	0	0	0	0	0	0	0	183,454	12,335	0
経 常 行 政 コ ス ト a	11,938,953		2,454,284	1,341,985	4,032,984	1,241,291	689,944	654,974	1,136,072	191,630	183,454	12,335	0
(構 成 比 率)			20.6%	11.2%	33.8%	10.4%	5.8%	5.5%	9.5%	1.6%	1.5%	0.1%	0.0%

【経常収益】

													一般財源 振替額	
1 使用料・手数料 b	332,770		15,393	22,197	39,614	137,698	29	0	18,280	0	41,485		0	58,074
2 分担金・負担金・寄附金 c	55,855		0	0	44,077	0	7,135	0	4,643	0	0		0	0
経 常 収 益 合 計 (b + c) d	388,625		15,393	22,197	83,691	137,698	7,164	0	22,923	0	41,485		0	58,074
d/a	3.3%		0.6%	1.7%	2.1%	11.1%	1.0%	0.0%	2.0%	0.0%	22.6%		0.0%	
(差引)純経常行政コスト a-d	11,550,328		2,438,891	1,319,788	3,949,293	1,103,593	682,780	654,974	1,113,149	191,630	141,969	12,335	0	△ 58,074

<行政コスト計算書>

行政コスト計算書は、1年間の行政活動のうち、資産形成に結びつかない行政サービスの経費（人件費等の「経常行政コスト」）とその行政サービスの直接対価（使用料等の「経常収益」）となる財源を対比させたものです。企業会計の損益計算の考え方にに基づき算定しています。バランスシートは、会計年度末における財政状態を示すものであり、ストック情報を明らかにする財務諸表ですが、この行政コスト計算書は、1年間の行政活動による費用対効果を表すフロー情報を表します。

（1）総括

本市普通会計の経常行政コスト総額は119.4億円となっています。市の1年間の行政活動のうち、人的サービスや給付サービス（社会保障給付等）といった行政サービスに係る経費です。これに対して使用料や手数料といった直接の受益者負担である「経常収益」は3.9億円で、差引の「純経常行政コスト」は115.5億円となっています。

一般的には、経常行政コストに対する経常収益（受益者負担）の割合は、2.0～8.0%と言われており、本市では、3.3%となっています。

（2）性質別行政コスト

性質別では、職員の給与、退職手当引当金繰入等など「人にかかるコスト」が20.8億円（17.4%）、物件費や減価償却費など「物にかかるコスト」は34.2億円（28.7%）、生活保護費などの扶助費や普通会計以外の会計等への支出など「移転支出的なコスト」は62.4億円（52.3%）となっています。

（3）目的別行政コスト

目的別では、高齢者、障害者、児童の福祉向上や生活保護費などの福祉分野が40.3億円（33.8%）を占め、次に道路、土地区画整理、公園、市営住宅など生活インフラ分野が24.5億円（20.6%）、教育分野が13.4億円（11.2%）、環境衛生分野が12.4億円（10.4%）という順になっています。

行政コスト計算書の用語解説

人件費	決算統計における人件費から退職手当を除いた金額
退職手当引当金繰入等	退職手当引当金に新たに繰り入れた額
物件費	旅費、備品購入費、光熱水費、委託料等の経費
維持補修費	施設等の維持修繕に要する経費
減価償却費	有形固定資産の経年劣化等に伴い、価値が減少したと認められる金額
社会保障給付	生活保護費等、普通会計が負担する扶助費支出をコストとして計上
補助金等	各種団体に対する補助金等
他会計等への支出額	特別会計等の財政的な支援金額
他団体への公共資産整備補助金等	決算統計の普通建設事業費のうち、市が管理する公共資産ではなく、県等の他の地方公共団体や民間団体等の資産形成に資する支出を計上
支払利息	市債と一時借入金にかかる支払利息の額
回収不能見込計上額	地方税や使用料などのうち、回収不能見込額として新たに貸借対照表に計上した金額及び当該年度の不納欠損額

純資産変動計算書

〔 自 平成26年4月 1 日
至 平成27年3月31日 〕

(単位:千円)

	純資産合計	公共資産等整備 国県補助金等	公共資産等整備 一般財源等	その他 一般財源等	資産評価差額
期首純資産残高	49,749,098	7,182,956	45,561,581	△ 3,932,685	937,246
純経常行政コスト	△ 11,550,328			△ 11,550,328	
一般財源					
地方税	4,417,398			4,417,398	
地方交付税	3,370,850			3,370,850	
その他行政コスト充当財源	1,983,568			1,983,568	
補助金等受入	2,420,430	319,656		2,100,774	
臨時損益	0				
災害復旧事業費	0			0	
公共資産除売却損益	0			0	
投資損失	△ 423,678			△ 423,678	
：					
科目振替					
公共資産整備への財源投入			706,411	△ 706,411	
公共資産処分による財源増		0	0	0	0
貸付金・出資金等への財源投入			705,229	△ 705,229	
貸付金・出資金等の回収等による財源増		0	△ 620,560	620,560	0
減価償却による財源増		△ 252,418	△ 1,586,192	1,838,610	0
地方債償還に伴う財源振替			937,931	△ 937,931	
資産評価替えによる変動額	△ 580,234				△ 580,234
無償受贈資産受入	0				0
その他	0		880,215	△ 880,215	
期末純資産残高	49,387,104	7,250,194	46,584,615	△ 4,804,717	357,012

<純資産変動計算書>

純資産変動計算書は、貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値の会計年度中の変動額を表しています。総額としての純資産の変動に加え、それがどのような財源や要因で増減したかの情報を表示しています。

(1) 総括

純経常行政コスト115.5億円の減少のほか、地方税や地方交付税などの一般財源の収入による97.7億円、補助金が24.2億円の増加となっています。その他臨時的な損益として、投資損失の減が4.2億円となっています。

この結果、25年度末時点(期首)に497.5億円あった純資産残高が、26年度末時点(期末)では493.9億円となっています。

純資産変動計算書の用語解説

純経常行政コスト	行政コスト計算書における純経常行政コスト
地方税	市民税、固定資産税など
地方交付税	普通交付税、特別交付税
その他行政コスト充当財源	地方譲与税、各種交付金、諸収入などの地方税や地方交付税以外の一般財源
補助金等受入	国庫支出金、県支出金
公共資産除売却損益	公共資産を除却、売却した場合の公共資産計上額と売却額の差額
投資損失	投資及び出資金の実質価格が取得原価に比べ30%以上下落した場合の差額
科目振替	主に公共資産の整備や貸付金の実施、回収による財源の移動を示す。例えば公共資産の整備を行った場合は、「その他一般財源」から「公共資産等整備一般財源等」に振り替わる。
資産評価替えによる変動額	売却可能資産の時価評価等による評価替えを行った際に生じる差額

資金収支計算書

〔自 平成26年4月 1日〕
〔至 平成27年3月31日〕

(単位:千円)

1 経常的収支の部	
人件費	2,164,602
物件費	1,506,693
社会保障給付	2,329,150
補助金等	1,030,441
支払利息	183,454
他会計等への事務費等充当財源繰出支出	1,297,625
その他支出	78,046
支出合計	8,590,011
地方税	4,426,456
地方交付税	3,370,850
国県補助金等	2,039,021
使用料・手数料	286,866
分担金・負担金・寄附金	43,950
諸収入	171,320
地方債発行額	924,979
基金取崩額	957,788
その他収入	589,254
収入合計	12,810,484
経常的収支額	4,220,473

2 公共資産整備収支の部	
公共資産整備支出	1,556,279
公共資産整備補助金等支出	177,085
他会計等への建設費充当財源繰出支出	47,662
支出合計	1,781,026
国県補助金等	381,409
地方債発行額	605,500
基金取崩額	4,094
その他収入	11,623
収入合計	1,002,626
公共資産整備収支額	△ 778,400

3 投資・財務的収支の部	
投資及び出資金	50
貸付金	30,000
基金積立額	669,423
定額運用基金への繰出支出	0
他会計等への公債費充当財源繰出支出	1,373,848
地方債償還額	1,379,803
長期未払金支払支出	0
支出合計	3,453,124
国県補助金等	0
貸付金回収額	30,000
基金取崩額	0
地方債発行額	16,600
公共資産等売却収入	221,291
その他収入	75,868
収入合計	343,759
投資・財務的収支額	△ 3,109,365

翌年度繰上充用金増減額	0
当年度歳計現金増減額	332,708
期首歳計現金残高	596,183
期末歳計現金残高	928,891

※1 一時借入金に関する情報

- ① 資金収支計算書には一時借入金の増減は含まれていません。
- ② 平成26年度における一時借入金の借入限度額は1,500,000千円です。
- ③ 支払利息のうち、一時借入金利子は0千円です。

※2 基礎的財政収支(プライマリーバランス)に関する情報

収入総額	14,156,869
地方債発行額	△ 1,547,079
財政調整基金等取崩額	△ 800,000
支出総額	△ 13,824,161
地方債償還額	1,563,257
財政調整基金等積立額	632,101
基礎的財政収支	180,987

<資金収支計算書>

「現金」の出入りの情報（流れ）を示すものであり、その収支を性質に応じて、「経常的収支」、「公共資産整備収支」、「投資・財務的収支」に区分して表示しています。

（１）総括

当年度の歳計現金は、経常的収支で 42.2億円の黒字、公共資産整備収支で 7.8億円の赤字、投資・財務的収支の部で 31.1億円の赤字となった結果、前年度から3.3億円の増となり、期末の歳計現金残高は 9.3億円となっています。

（２）経常的収支

経常的支出は、人件費や施設の維持管理費などの支出で 85.9億円となっています。支出の内訳は社会保障給付費が最も多く23.3億円、次いで人件費が 21.6億円となっています。

経常的収入は、税金、地方交付税、使用料・手数料など日常的な行政活動を行うための支出を賄う収入で128.1億円。収入のうち、地方税が最も多く 44.3億円、次いで地方交付税33.7億円となっています。

「経常的収支の部」の差額 42.2億円が、公共資産整備や地方債償還などに充当されることとなります。

（３）公共資産整備収支

自団体で資本整備にあたる部分と他団体へ補助金を支出して公共資産を整備する公共資産整備補助金等支出、そして他会計への繰出金のうち建設費に充てられるものが計上され、17.8億円を計上しています。その財源として、国・県からの補助金収入、地方債発行による収入などにより10.0億円を計上し、差引収支は 7.8億円の赤字となっており、経常的収支の一般財源で賄われています。

（４）投資・財務的収支

支出は、他会計への公債費充当財源繰出金、地方債の返済や基金の積立など、合計34.5億円を計上しています。

一方、収入には、公共資産等売却収入、貸付金回収額などで 3.4億円を計上し、差引収支は31.1億円の赤字となっています。

資金収支計算書の用語解説

経常的収支の部	人件費、生活保護等の社会保障給付、地方債償還に伴う償還利子等の毎年度継続的に支出するものと財源としての地方税等の収入
公共資産整備収支の部	市道や市立小中学校施設等など公共資産を整備するための支出と、整備財源としての地方債借入額等の収入
投資・財務的収支の部	公営企業や外郭団体への出資金、貸付金、地方債の元金償還額などへの経費及び財源
プライマリーバランス (基礎的財政収支)	地方債の利払い費と償還額を除いた歳出と、地方債発行収入を除いた歳入のバランスをみるものです。年度間の財源調整機能を果たす財政調整基金の取崩額や積立額も除きます。

Ⅲ 普通会計財務書類を活用した分析

1 社会資本形成の世代間負担比率

社会資本形成の結果を表す公共資産のうち、純資産（過去及び現世代の負担により形成された財産の額）による整備割合を見ることにより、これまでの世代によって既に負担された分の割合を見ることができます。

また、負債である地方債に着目すれば、将来世代が負担しなければならない分の割合を見ることができます。

<算定式>

- ・ 社会資本形成の過去及び現世代負担比率（％）＝純資産合計÷公共資産合計×100
- ・ 社会資本形成の将来世代負担比率（％）＝地方債残高÷公共資産合計×100

<社会資本形成の負担比率>

公共資産合計	59,843,059千円
純資産合計	49,387,104千円
地方債残高	14,057,040千円

項目	H26決算	H25決算	増減
社会資本形成の過去及び現世代負担比率（％）※1	82.5	82.3	0.2
社会資本形成の将来世代負担比率（％）※2	23.5	23.3	0.2

※1 平均的な値は50％～90％の間（新地方公会計の解説書による。）

※2 平均的な値は15％～40％の間

2 資産形成規模（歳入額対資産比率）

歳入総額に対する資産の比率を算定することにより、形成されたストックである資産は何年分の歳入が充当されたかを見ることができます。

<算定式>

$$\text{歳入額対資産比率} = \text{資産合計} \div \text{歳入総額}$$

<歳入額対資産比率>

資産合計	65,298,709千円
歳入総額	14,753,052千円

※ 歳入総額は、資金収支計算書の各部の収入合計の総額に期首歳計現金残高を加算して算出しています。

項目	H26決算	H25決算	増減
歳入額対資産比率（年）※	4.4	4.8	△0.4

※ 平均的な値は3.0～7.0の間

本市の平成26年度歳入額対資産比率は4.4年となっています。

3 資産老朽化比率（公共資産の減価償却累計額の割合）

有形固定資産のうち、土地以外の償却資産の取得価額に対する減価償却累計額の割合を計算することにより、耐用年数に比して減価償却がどのくらい進んでいるか、把握することができます。

<算定式>

$$\text{資産老朽化比率（\%）} = \text{減価償却累計額} \div \text{償却資産取得額} \times 100$$

<資産老朽化比率>

（単位：千円）

行政目的	償却資産取得額	減価償却累計額	資産老朽化比率（\%）		
			H26決算	H25決算	増減
生活インフラ・国土保全	44,244,121	19,613,345	44.3	42.8	1.5
教育	15,329,703	7,093,265	46.3	45.4	0.9
福祉	2,545,825	2,171,002	85.3	83.8	1.5
環境衛生	9,981,688	7,694,202	77.1	76.7	0.4
産業振興	5,377,486	4,689,063	87.2	86.3	0.9
消防	1,433,713	1,216,072	84.8	86.5	△1.7
総務	3,492,957	1,840,006	52.7	50.5	2.2
合計	82,405,493	44,316,955	53.8	52.6	1.2

※ 平均的な値は35%~50%の間

本市では、全体で平均的な値を上回っており、目的別で見るとかなり老朽化が進んでいる施設があることから、施設の更新時期が近付いていることが分かります。

4 受益と負担の状況

行政コスト計算書における経常収益は、使用料、手数料、負担金などの受益者負担による収入額（調定額）が計上されています。この経常収益の経常行政コストに対する割合を算定することで、経常行政コストが受益者の負担でどの程度賄われているかを見ることができます。

<算定式>

$$\text{受益者負担比率（\%）} = \text{経常収益} \div \text{経常行政コスト} \times 100$$

<受益者負担比率>

経常行政コスト 11,938,953千円

経常収益 388,625千円

項目	H26決算	H25決算	増減
受益者負担比率（\%）	3.3	3.5	△0.2

本市の平成26年度の受益者負担比率は3.3%となっており、残りの96.7%の行政コストについては、地方税や国・県支出金で賄われています。